

第13回「日本語大賞」

テーマ「 」に伝えたい言葉

小学生の部 優秀賞 受賞作品

感謝の気持ち

神奈川県
湘南ゼミナール 塚越教室
小学五年 伊藤 桃子

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

感謝の気持ち

湘南ゼミナール 塚越教室 小学五年

伊藤 桃子（いとう・ももこ）

私の父は、普段お調子者でとってもやさしい。ボードゲームやビデオゲームと一緒に遊ぶこともあるし、たまには勉強を教えてくれる。私は父が大好きだ。

そんな私の父は、都内の大病院で働く医者だ。専門は呼吸器内科で、一ヶ月の休みは三日しかない。さらに、新型コロナウイルスが流行してから、父の仕事が前よりも忙しくなっている。昨年初めにコロナが流行しはじめてから、ずっとコロナと闘い続けているのだ。

休みの日や、夜おそくに父に会うと必ず「今日はどうだった。」と声をかけてくれる。でもふと思い返してみると、私は父に「今日はどうだった。」と聞いたことはあるだろうか。「大変だね。」「大丈夫。」と声をかけたことがあるだろうか。「いつも家族のことを思ってくれてありがとう。」「世の中の人のために大事な仕事をしてくれてありがとう。」「感謝の気持ちを伝えたことがあるだろうか。父のとなりでずっとすごしてきた私がなぜこのようなかん単に言えることを言えなかったのだろうか。」

世の中がパニックになって大変な今だからこそ、私はこの感謝の気持ちを伝えなければならぬ。そして父にもっと関心を持ち、父のことを大事にしなければならぬ。毎日最低一人の命を救っている父に感謝の気持ちを伝えなければならぬ。

「お父さん、いつも人々を助けてくれて、本当にありがとう。」